

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の理念である「生活リハビリ」と「コミュニケーション」に基づき、施設目標「本人の出来ることを生かし発揮できる場を」を掲げ、共有と実践に努めています。	会社の理念、施設目標を会議室に掲示すると共に、毎月の全体会議で周知しています。生活自体をリハビリと考え、利用者一人ひとりのできることが、日々発揮できるよう働きかけて実践に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の春祭りの獅子舞に出掛け、地主さんに場所をお借りして見物しました。9月末には地区の花火大会の予定もあります。また今年は保育園との交流会のお話をいただき、数名ずつ保育園に出掛けて楽しめました。	保育園との交流に少人数ずつ出かけて、一緒に折り紙をしたり歌を聞いたり、握手をして触れ合い、普段は見られないような良い表情が見られました(運営推進会議資料より)。春祭りの獅子舞や秋祭りの花火大会を見て、季節を感じると共に、地域との繋がりを続けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	居室が空いた時に短期の受入れができるようになっていきます。中学校の職場体験は残念ながら今回は申し込みがありませんでしたが、今後も希望があれば積極的に受け入れていきたいと思っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	家族代表・民生委員・地主さん・地域包括支援センターの職員さんにご参加いただき、二か月に一度、ご利用者様の状況やサービス提供・健康状態・事故報告・収支報告等をして、助言や要望等をいただき、業務に活かさせていただいています。	メンバーには利用者代表も加わり、2ヶ月に1度開催しています。欠席のメンバーには後日資料と会議録を送付して、「回答書」にて活動状況の評価、要望等ご意見をいただき、サービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	制度の変更の際や、制度について分からないことについて、その都度相談に乗っていただいています。	日々の事業活動において困ったことがある時は、相談に乗っていただいています。運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの職員さんがいるので、施設の状況もわかっていただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	社内研修実施計画にて、身体拘束について年4回の研修を行っています。身体拘束への理解と、身体的・精神的弊害を認識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関の施錠は、防犯のため夜間のみ行っています。	会社として、指針・委員会・研修の整備がされ、それを基に施設の委員会で研修計画を立てて、年4回実施しています。テーマは、知識の他に、職員の提案で現場で気になることを取り上げて考える等の実践に即した研修で、身体拘束廃止の意識を高め日々のケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会社全体での虐待防止委員会からの資料に基づき、GH切石の社内研修にて高齢者虐待防止に関する研修も行っています。適切な知識を持ち、未然防止に努めています。			

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	パンフレット等の情報提供をしています。また必要と思われる利用者やご家族には、利用に繋がられるよう支援していきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前には施設の見学をしていただき、契約時には契約書及び重要項目説明書の説明を行っています。ご家族の不安に思う点や質問等にお答えしながら、安心して入所していただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進委員会の場や、電話連絡・訪問・面会の際にも、ご意見・ご要望をお聞きしながら、話がしやすい環境づくりに努めています。	3ヶ月に1度、行事やホームの様子など家族にお便りを送ってお知らせしています。面会時や電話などでもご意見を聞けるよう努め、共有しています。家族の希望で、コロナの状況を見ながら、面会ルールを緩めた経過があると伺いました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度、管理者と職員全員が参加して全体会議議を行っており、意見交換や話し合いの場を設けています。開設者には、必ず会議記録に目を通してもらっています。	年1回の会社の個人面談、月1回の全体会議が定期的に行われ、職員が意見を言いやすい環境が用意されています。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、出された意見は職員で確認しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	困りごとなど相談しやすい雰囲気づくりを心掛けており、環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	初任者研修や実務者研修、法人外の研修にも希望があれば参加できるように機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営推進会議や研修会に参加した際など、同業者の方との交流ができるように努めています。		

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前にご本人様と面談し、困り事や不安な気持ち、要望などをお聞きしています。入所に対する不安な気持ちが少しでも和らぐようにお話をして、安心・信頼していただける様に努めています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前にご家族様と面談し、困り事や不安な点、要望などをお聞きしています。安心して入所していただき、気軽に話や相談ができるような関係づくりに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所前にご本人様・ご家族とお話をする中で、在宅生活の中での困り事や必要としていることを把握し、支援の見極めに努めています。状況に応じて、社内他職種やサービス機関へ繋げています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に過ごして生活する中で、得意なことを教えていただき、縫物や調理作業などを一緒にしながら過ごしていただいています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様には日ごろから報告・相談などをしながら協力していただいています。コロナの流行を気にしながらも、ご家族との面会や外出などを通して、関わりを持っていただける様に努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様以外の面会や外出等はこちらではあまりみられませんが、ご利用者様の今までの生活が少しでも継続していけるように支援していきたいと思っています。	以前は友人の面会などがありましたが、コロナ以降中断されています。墓参りや行きつけの美容院などの外出希望があり、家族の協力を得ながら実現できるように対応しています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の合う合わないを見極めながら、感情の起伏や作り話等で混乱が起こらないように、日々の様子を共有しています。寂しい思いをする方がなく、皆さんが穏やかに関わり合えるような支援に努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も関係性が終わるという事ではないので、その後の経過を見守り、必要があれば相談や支援等の対応をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしく暮らしていくために、希望や意向の把握に努めています。難しい人の場合は、日々の行いや表現の中から汲み取ったり、職員やご家族の話の中から把握に努めたりしています。	あれが食べたいや散歩がしたい、手伝おうとすると自分でやりますなどの思いを言葉にできる利用者が多く、そういう思いや意向をよく聞くようにしています。聞き取った内容は記録し職員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの暮らしの継続のために、入所決定時に居宅介護支援専門員やご家族より、生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの生活のリズムを捉え、日々の体調や心身の状態の把握に努めています。日々の関わりの中でできること、わかることを感じ取り、職員間で共有し、自立支援に繋がっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	その人らしい暮らしの為に、本人の希望や意向に沿い、できる力を見極めて、日常生活を意欲的に良い表情で過ごすことができるよう、家族や職員間で話し合い、計画を作成しています。	日々の関わりの中から、希望やできることを把握して、家族からは面会時に希望を聞き、一人ひとりの暮らし方に合った計画を作成しています。毎月のモニタリングを全体会議で共有し、見直しを行っています。「絵を描く」「新聞を読む」「掃除機をかける」「お盆拭き」「落ち着ける環境」等が具体的です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ほのぼのシステムに食事・水分量・排泄・バイタル他、日々の様子を記録し、気づきや状態の変化は申し送りに記録し、職員間で共有・確認しています。状態の変化に応じて介護計画も見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	心配や不安に思ったことを、社内の理学療法士(PT)に相談したり、週に1回の歯科衛生士との連携で、毎日の口腔ケアに繋げ、必要時、歯科医師に相談したりしています。主治医と医療連携し、ご利用者様、ご家族様の負担軽減に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	昨年は地域の文化際に刺し子の作品を出品し、評価をいただきご本人も励みになりました。保育園を訪問して楽しい時間が持てました。地域中学生の職場実習の受け入れも行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今迄と同様に継続的な医療が受けられるよう、ご本人や、ご家族様の意向を大切にしています。受診時にはご利用者様の生活の様子や変化、心配事等を情報提供し適切な医療が受けられるようにしています。	入所時に、本人や家族の意向を伺っており、現在5名の方が主治医継続し、受診は家族にお願いしています。受診の際は、健康状態のデータと情報提供書を介し、主治医との連携を図っています。歯科は往診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師とは日々必要な相談ができる体制となっています。緊急時や急変時は速やかに報告し指示を仰ぎ、対応できるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ご利用者様の情報提供や病院の相談員と連絡を取り合い、情報交換を行っています。できるだけ早期に退院できるように相談を行い、退院後の計画に向けて、生活が継続できるように病院関係者やご家族様との関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に対応していない事業所である事を入所時より説明し、早い段階からご家族様と話し合っ、住み替えが不安なくできるようにしています。住み替え時は関係者にこれまでの暮らし方や、環境等を継続していただけるよう働きかけています。	入所時に、重度化や終末期ケアについての方針を説明しています。家族に状態の報告をし、検討・提案をして、本人にとって最適な暮らしの場を一緒に考えています。会社内の施設間で調整がしやすいことも家族の安心につながっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年に1回応急手当の学習会、消防署職員による救命救急の訓練を実施しています。緊急時はマニュアルに沿って対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	当法人では自然災害時発生における業務継続計画(BCP)を作成し、それをもとに各職員と研修会を実施しています。また年2回消防訓練を行い、避難等の確認をしています。6月には柏石地区の消防団員と避難訓練を実施いたしました。	会社としての災害対策に基づき、机上研修と実地訓練を行っています。6月に消防団の訓練を当施設を会場として行い、地域の方々も参加して避難誘導をしていただきました。備蓄品をはじめ、貯水タンク・自家発電の設置、緊急メール連絡・安否確認できるアプリを使用し、対策を行っています。	会社としての災害対策は万全です。いつ起きるかわからない災害ですので、あらゆる災害を想定し、実際に起きた時、現場の職員はその場でどう動くかシミュレーションをして、職員が安心して災害に備えられることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	社内研修でプライバシーを侵害しない為のチェックポイントを見直し、信頼関係の構築にはプライバシーへの配慮が必要だと学びました。排泄時の声掛けや日常でのコミュニケーションなどを、日々振り返るように努めています。	『「尊厳」を一番大切にしたいと思って利用者と関わっている。排泄時の声かけもプライバシーを意識している』(職員ヒヤリングより)職員の希望でスピーチロックの研修を行い、何気ない言葉でも相手を傷つけてしまう事を学び、日々のケアを振り返って、再確認していました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の会話から思いや希望を聞き出し、自己決定が出来るよう働きかけています。希望を表現できない方の場合には、レクリエーションの選択肢を用意して選んでいただくなど、いろんな角度からアプローチをして引き出せるよう支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事の時間やみんなでやる体操など、一日の過ごし方にメリハリをつけていますが、その日の体調や一人ひとりのペースに合わせて過ごしていただけるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝の整容や、入浴後に着る衣類と一緒に選ぶ、夜はパジャマに着替えるなど、身だしなみやおしゃれが出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	畑で採れる季節の野菜などを活用しています。誕生会などの行事の際には、希望するメニューなどを聞いて用意しています。普段は野菜の下ごしらえや下膳、片付けなど個々の出来ることに合わせて一緒に行っています。	施設の畑で採れる季節の野菜を使ったり、誕生会では誕生者の希望メニューを聞いて作っています。キャベツの千切り、野菜の皮むき、味見も大切な役割です。食後は下膳、お盆拭き、食器のすすぎ等、できることを一緒に行っています。ホットプレートで料理を作る機会は、楽しみや新たな発見につながっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士の考えたメニューを元に食事を提供しています。一日の食事量・水分量を記録し、食べる量や様子など普段と違う様子が見られる際は、申し送りにて周知し、その都度変更等を行っています。		
42	000	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの際、歯科衛生士の指導に従い、一人ひとりに合った歯ブラシ・義歯ブラシ・舌ブラシなど使用し、見守りや介助などの支援をしています。夜間は義歯を預かって水に浸け、週一回洗浄剤を使用しています。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	失禁の多い方には早めに声掛けし、トイレ誘導を行っています。それ以外の方にも時間を見て定期的に声掛けし、排泄の間隔や状況把握に努めています。	トイレでの排泄を基本として支援しています。(夜間ポータブルトイレ使用の方1名)。状態に合わせて適切な使用品、交換方法、声のかけ方を共有し、自立支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の運動や、食事をよく噛んでいただくなどの支援をしています。排便確認と記録をして職員間で共有することで、便秘のため入院して薬の調整をされた方も一名いらっしゃいました。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	基本的には入浴日を固定していますが、体調や気分などで変更したりして対応しています。お湯の温度や入浴時間など、お好みに合わせて気持ちよく入浴できるよう努めています。	本人希望でシャワーのみの方は自分で気が済むまでかけたり、気分が乗らないときは時間をずらして声をかける等、一人ひとりの気持ちに寄り添っています。入浴剤を使用し「きれいな色だね」と気持ちよく入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	午睡時間を設けていますが、体調や状況に合わせて休んでいただいています。暑い時期にはエアコンを使用し、気持ちよく休めるように支援しています。快適に休めるよう、週一回シーツ交換をして清潔に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の情報を確認し、変更時や頓服の処方の際には申し送りにて周知しています。内服後に変化があった場合などは記録をし、次の受診に繋げるようにしています。服用前には名前・日付け・いつ飲む物かを確認し、飲み込みまで確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴や得意なことに合わせて、朝の掃除や調理の手伝い、縫い物などをお願いしています。役割を果たすことで、張り合いや楽しさを感じていただける様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの状況も様子を見ながら、出来るだけご家族と過ごせるように努めており、家でご家族との食事やドライブなども支援しています。春には外に出て、季節を肌で感じていただける機会を作りました。ドライブなどの外出も計画していきたいと思っています。	行事でドライブに出かけ、アイスを食べたり、たい焼きを買って帰る等、希望に沿えるよう計画に取り入れています。普段遠方への外出は難しくても、少しの時間でも玄関先のベンチで景色を眺めたり、天気の良い日にテーブルや椅子を運び出し、外でお茶や歌を楽しんで、少しでも外気を感じられる工夫をしています。	全体としての外出は、計画しています。個々の希望や馴染みの場所等、家族の支援で十分ならば良いのですが、家族アンケートでも希望があったので、職員も個別の対応ができるよう、限られた職員体制ではありますが、工夫されることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭についてはご家族様に管理をお任せしており、ご本人が所持して使用するような支援はできておりません。ご本人より必要な物の希望をお聞きしたり相談をして、ご家族様をお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話についてはご家族様からお電話いただいた際や、ご本人より希望があった時や不安になった際などは対応しています。手紙のやりとりはありませんが、敬老の日にお手紙で一言いただくことを試みる予定です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日掃除をして清潔保持に努め、空調の利用や換気などを行い、快適に過ごせるように支援しています。季節によって掲示物をご利用者様と一緒に制作したりして、室内でも季節を感じていただける様に工夫しています。	毎日掃除機をかける方、手すりを拭く方と職員が一緒に掃除をして、快適な生活空間となっています。壁には毎月写真やカレンダー、ぬりえなど、季節に合わせた作品を利用者と職員が一緒に作成したり、飾ったりしています。リビングのソファでは、気の合う利用者同士がおしゃべりをしてくつろいでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方とお話できるように、座る席などを日々の様子を見ながら、適宜変更して過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の使用していた寝具や家具、馴染みのある物や写真などを持ってきていただいています。ご本人の使いやすさや安全な動線確保に気を配るようにしています。	備え付けの家具の他に、使いやすい引き出しや棚を持ち込み、テレビのある居室、お位牌がある居室、家族の写真や色紙を飾った居室、枕元にぬいぐるみがある居室、それぞれに居心地のよい居室づくりがされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動線に障害物になるようなものを置かないようにしたり、夜間も安全にトイレに行けるように足元等の設置やホールの照明などに注意しています。トイレに分かりやすく張り紙をしたり、ご本人の分かることを活かせるように、声掛けや支援をしています。		